

JHFREPORT



2017パラグライディング日本選手権in足尾より。空撮：中目どり選手（P10の報告をご覧ください。）

2018年も「フライトの自由」を守るために

JHFは2018年も「フライトの自由」を守るため、また公益社団法人として連盟活動をしていきます。

安全性の向上、事故をなくすことはJHFの大きな課題であり、さまざまな取り組みを続けてきました。それが事故減少に結びついたという実感はなかなか得られない現状ですが、従来のパイロット安全セミナーをさらに充実さ

せるとともに、バラつきが生じているフライヤーの技能レベルの標準化を図り、また事故情報を収集して再発防止につとめていきます。

一般の方々にスカイスポーツを身近なものに感じてもらうための体験会など、普及振興活動もこれまでと同様にフライヤーの皆さん、都道府県連盟のご協力をいただき実施していきます。

体験会など地道な活動の積み重ねによって、少しずつでもハンググライディング・パラグライディングの理解者を増やすことが、このスポーツの未来につながっていくでしょう。

フライヤー会員の皆さん、今年も安全を第一にフライトを楽しんでください。そして、JHFのさまざまな活動に気軽にご参加ください。

スポーツくじ



JHFレポートはスポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています

JHFフライヤー宣言

1. 自分の意志と責任でフライトします。
2. 自己の健康管理を行い、健全なフライトをします。
3. 社会のルールを守り、第三者に迷惑をかけません。
4. 自然を大切にします。

楽しくフライトできる環境を守る。

JHF常設委員会の次期委員を募集

JHFには下記の常設委員会があり、委員たちはハンググライディング・パラグライディングの普及と発展のために、安全に楽しくフライトできる環境を守るために活動しています。

現在活躍中の常設委員会の委員が今年3月31日に任期満了を迎えるため、2018年度・2019年度の2年間で任期とする委員を募集します。

楽しく飛び続けたい、大切な空の仲間のために何かしたいと思っているあなた、ぜひ立候補してください。委員としてJHFの事業推進に力を貸してくださいようお願いします。

以下、各常設委員会委員長からのメッセージです。

ハンググライディング競技委員会

当委員会はハンググライディングスポーツの発展に寄与することを目的とし、主に日本国内における大会の公認・管理・支援、ならびに国際大会に出場する日本チームメンバーの選考を行っています。

また、毎年改訂される国際ルールであるスポーティングコードS7に合わせながら、国内競技ルールの改定・作成を行っています。

ここ数年は競技人口の減少は無くなりましたが、現在ハンググライディングシリーズに参加している競技人口は100人程、ハングシリーズ開催地は5か所ほどしかありません。競技を通じてレベルアップや仲間を増やしたいなど情熱のある方、一緒に盛り上げていきましょう。

パラグライディング競技委員会

道半ばではありますが、ホームページを刷新し、大会の案内、ウェブエントリーを統一形式で行えるように、また大会の結果（ポイント計算も含め）もホームページにタイムリーに掲載されるようにしています。

底辺拡大を目的として、エントリーしやすいJ2リーグ戦を普及させる努力をしています。2017年は3大会開催することができました。

一方アキュラシーリーグのほうは、いまひとつ盛り上がり欠け、大会数も減少しています。その影響かどうか

定かではありませんが、参加選手数も減少しています。世界的には、盛り上がってきているので、今年インドネシアで開催されるアジア大会を契機として、世界に遅れないように活性化を図っていきたく考えています。

競技人口を増やすアイデアをお持ちの方の参加を歓迎します。

教員・スクール事業委員会

当委員会では、教員の検定や更新講習、ライセンスに関わる事業を行ってきました。

2017年3月には教員検定員検定会を開催し、23名の検定員を任命しました。この検定員の方々が全国の教員検定、更新講習会、事故調査員として活動しています。また当委員会の大きな事業として、パラグライダー教本の改訂に取り組んでおり、より良い教本にするために、委員全員で編集作業を行っています。2018年には全国のスクールで活用いただけるよう進めています。

今後、委員会としてはライセンス制度を見直し、教員、パイロットの質の向上を図り、パラ・ハング界の活性化に貢献していきたく考えています。

ともに活動していただける新たな委員の参加をお待ちしています。



2017年教員検定員検定会で行ったリパック研修。

補助動力委員会

当委員会では、安全モラルの向上を目標に「JHFパラグライディング教本副読本、動力付きパラグライダー」教本、「MPGパイロット安全セミナー資料」を作成してきました。昨年は「MPG浮力体実験」を滋賀県の琵琶湖で実施、多数の参加をいただき、同時に安全講

習も行いました。

MPGフライヤーの皆さんへのフライトに必要な情報提供をこれからも続けて行きたいと考えています。地味な作業ですが、補助動力の魅力を保ち、安全モラルの向上をめざして、活動に参加して下さる仲間を求めています。明日のMPGのために動ける若い仲間を、スカイスポーツが大好きで、もっと広めたいと思っている方の参加を待っています。



琵琶湖での浮力体実験では委員長自ら被験者に。

制度委員会

当委員会は、公益法人であるJHFが法律や定款に抵触しないよう留意し、活動を行っています。

[活動の概要]

- ・理事会の諮問に応じて規程、規約等の案、または改定案を作成する

- ・すべての委員会と連携を取り、新たな制度案や規程案、また規程の見直しを理事会に提言する

[制度委員会に向いている方]

- ・パラ、ハングで空を飛ぶことが大好きな方

- ・文章を細かいところまで読み込み文章作成が得意な方

- ・パソコンメール、スカイプなどで会議ができる方

安全性委員会

ハンググライディング、パラグライディングを安全に、安心して楽しめるよう、またそうしてこのスポーツの振興に資するよう、使用機材の技術的な審査、情報収集・分析を行い、また、事故の調査、情報収集、分析を行い、そのほか、安全性にかかわる事案の分析・情報発信を行っています。

これらの作業を行うための経験、知識、能力のある方を安全性委員として募集します。

ハングパラ振興委員会

当委員会は「今飛んでいる人が飛び続けられる環境作り」を主要なテーマとして掲げ、以下のような活動に取り組んでいます。

飛ぶ仲間を増やし連携を広げることなどへの関心をお持ちの方を広く募ります。

・パンフレット「ハンググライダーで飛ぼう！」の制作（前任委員からの継承）

・JHFホームページ上の「フライヤーズボイス」定期更新体制の整備

・体験会等イベントへの協力

・外部組織との連携: VR体験に際して大学研究室との協力体制整備

・メディアへの情報提供

・教本改訂への協力

今後近々には以下の活動を予定しています。

・ご家族の理解を得るためのパンフレット「ご家族の皆様へ（仮称）」の制作

・フライト活動を止めてしまった方の状況分析（学連とも連携）

・体験会等イベントへの協力

・体験会を安全に実施するためのガイドライン検討

・教本改訂への協力

・JHFホームページ上の「フライヤーズボイス」定期更新体制の維持

役員選任実行委員会

当委員会は、2年に一度の役員改選が行われる通常総会の、役員選任議案で実施される議決権行使の正会員投票を円滑に進めるための事務管理を担っています。

併せて、今後のJHFのより健全な経営に寄与いただけるよう理事・監事を務めてくださる方への立候補支援活動も行っています。

今回の役員改選は2019年の通常総会です。広く人脈を持ち公正な判断ができる方を求めます。

応募方法と締切日

□応募方法：応募用紙に必要事項を記入して、JHF事務局にメール（ファイル添付）、ファクス、郵便などでお送りください。応募用紙は、JHFウェブサイトTOPICS、『JHF委員会委員を募集します〔1月19日〕』からダウンロードしてください（ワードファイル）。ダウンロードができない方、ワード使用不可の方は、お手数ですが、事務局にご請求ください。

□応募締切日：2018年3月7日

□選任：理事会で選任を決定

□任期：2018年4月1日～2020年3月31日

□定員：教員・スクール事業委員会と安全性委員会が6名、他は5名

□その他：委員会活動には交通費（実費）と日当（5,000円）等を支給

不明点はお気軽にJHF事務局にお問い合わせください。

TEL.03-5834-2889

E-mail：info@jhf.hangpara.or.jp

フライヤー会員登録の保険：第三者賠償責任保険について

他人に与えた傷害・損害を償う保険

ハンググライディング、パラグライディングを行う場合「フライヤー宣言」の精神に基づき行動し、他人に迷惑をかけないことを念頭におかなければなりません。このため、JHFは東京海上日動火災保険株式会社と契約をし、皆さんがフライヤー会員登録をすると自動的に第三者賠償責任保険に加入されるようにしています。

これは、あなた個人のハンググライダー、パラグライダーでの操作あるいは飛行に起因する事故で、他人の身体に傷害または財物に破壊等を与えた場合の賠償のための保険です。被害者に対する法律上の賠償責任として支払われなければならない治療費や修理代金等をサポートできます。

請求できない免責は……

・故意に起こした事故

・あなたが所有、使用または管理する財物の損害事故

・同居している親族に与えた事故

・あなたの職務遂行に直接起因する事故

……などで、ご自身の怪我の治療費なども請求できません。

他の賠償保険加入の確認を！

皆さんがいざという時に備えるための保険ですが、今後も高額保険金支払いが続くと、保険会社から引受を拒否されることも起こります。事故の件数を減らすことの他に、他の賠償保険のご加入（自動車保険や火災保険等の付帯保険契約）があれば、保険金を複数の保険商品から分担して拠出が可能になりますので、保険請求の際には、必ずご確認をお願いします。また、今すぐ、ご加入の保険契約の見直しをお願いします。

自他の安全を第一にフライトする

ここ数年の高額支払いはフライヤー同士の人身事故で1千万円以上になることがあります。次いでランディング等で他人の機体、車、民家の壁やケーブルに損害を与えた場合の支払いが目立ちます。フライヤー同士の場合、テイクオフやランディングなどでも上から他機が来るかもしれないという危険認識があるとみなされ、スポーツ参加危険の観点からも加害側が100%法的賠償責任をもつということにはなりま

せん。保険で一方が弁償すれば済むと安易に考えず、再発防止を含めて関係者の皆さんがそれぞれの責任について考えて欲しいと思います。

万一事故が起きたら

事故が起きたら、まずJHF事務局へ事故報告のご連絡をください。

JHF事務局が休業等の場合は、下記東京海上日動安心110番にご連絡いただき、後日JHF事務局へ事故報告をお願いします。

**全国共通 東京海上日動安心110番
0120-119-110**

東京海上日動への連絡の際は、必ず「日本ハング・パラグライディング連盟会員の賠償責任保険の連絡です」と伝えてください。また、下記項目が必要になりますのでご用意してからご連絡ください。

1. フライヤー会員番号、住所、氏名、電話番号
2. 事故発生の日時、場所
3. 事故の状況
4. 相手（被害者）の怪我・損害の程度
5. 被害者の住所、氏名

JHFの動き

HG&PGのおもしろさを紹介 三つのイベントを後援しました

スカイスportsの魅力をもっと多くの人に伝えたいと、昨秋、JHFは三つのイベントを後援、体験会を実施しました。

●10月1日(日)：福島

「福島の輝く未来へ！スポーツわくわくプロジェクト～大空にはばたけ！スカイスports教室～2017」(主催：福島県)がふくしまスカイパークで開催されました。さまざまなプログラムの中で、ハンググライダー・トーイン



ふくしまスカイパークのハング体験、約160名が楽しんだ。



日本の航空の記念すべき地でパラ・ハングの魅力を紹介。

グ体験、VR(ヴァーチャルリアリティ)体験の依頼もあり、約160名の小学生にハンググライダーを楽しんでもらいました。

●10月28日(土)・29日(日)：東京

代々木公園(東京都渋谷区)開園50周年記念事業で「大空体験～日本航空発始の地～」が開催され、パラグライダー、ハンググライダーの搭乗体験に協力しました。台風の影響で29日は残念ながら中止になりましたが、28日は実施できました。(代々木公園はかつて陸軍代々木練兵場でした。明治43年に日本人が初めて飛行機で飛んだ場所です。)

●11月25日(土)：茨城

「FLY AGAIN TSUCHIURA 2017」(主催：土浦市青年会議所)が茨城県の霞ヶ浦総合公園で開催されました。ハンググライダー・トーイング体験の



霞ヶ浦総合公園にハング体験参加者の歓声が響いた一日。

依頼があり、青空の中、風車をバックに体験会ができました。

HGクラス1日本選手権 11月に西富士で開催予定

11月22日(木)～25日(日)、静岡県朝霧で『2018ハンググライディング日本選手権IN第29回西富士ジャパングラシック』を開催の予定です。

他の日本選手権や、JHF公認大会の日程は、決定次第JHFウェブサイトの各競技委員会のページに掲載していきますので、ぜひご覧ください。今号7ページにも予定を掲載しています。

第5回JHFフォトコンテスト お気軽にご応募ください

ハンググライダー・パラグライダーフォトコンテストを今年も開催します。

JHFは、ハンググライダーやパラグライダーの写真が多くの人々の目に触れることによってこのスポーツの認知度が上がり、より一層の普及に役立つと考え、2010年からフォトコンテストを隔年で開催してきました。今年で5回目を迎えるフォトコンに、ぜひご応募ください。締め切りは9月1日の予定。募集要綱が決まり次第、JHFウェブサイトのトピックスでお知らせします。

県連だより

■キッズパラグライダー体験会開催 沖縄県ハング・パラグライディング連盟

11月5日(日)に南城市玉城総合体育館で、沖縄の子供達に飛ぶことの楽しさを知ってもらおうと「第2回沖縄県連キッズパラグライダー無料体験会」を開催しました。参加人数30名の募集でしたが、キャンセル待ちになるほどの応募をいただきました。

まずはパラグライダーの仕組み、翼の仕組みなどを子供向けに簡単に説明し、いよいよハーネスをつけて自分でライズアップ！小さな子もクラブ員がお手伝いしてグライダーを立ち上げて一生懸命走ってましたね♪

午後からは、子供達がしっかり飛んだって思えるぐらい浮かすためにクラブ員が全力ダッシュでお手伝い。時間的にも余裕があったので参加者の両親

も体験することになったのですが、大人を室内で浮き上がらせるのは、それはそれは大変でした。クラブ員が前に2人、後ろに1人で全力ダッシュ！大きいグライダー担当は疲れ果ててましたね。

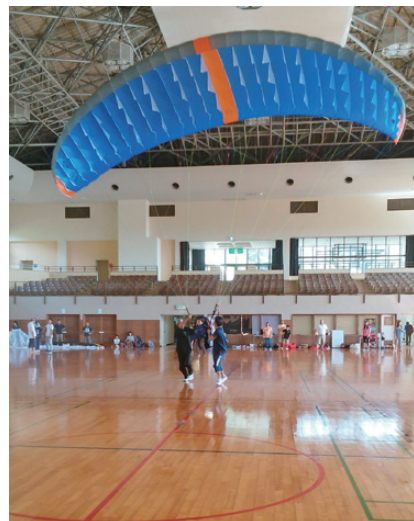
今回の参加者も大喜びでしたし、キャンセル待ちで参加できなかった方もいるので第3回、4回と開催していこうと思います。この活動を通じて未



体験の前にパラグライダーの仕組みを説明。

来のフライヤーが1人でも増えてくれたら嬉しいですね！

(文：琉球スカイアカデミー 金子)



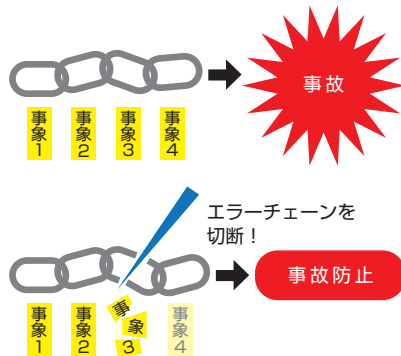
飛ぶ楽しさを知ってもらおうと走り抜いた！

2017年の事故に学ぶ

JHF安全性委員会

2017年は下記のように9件の重大事故（死亡事故）が発生しました。フライヤーの誰もが無事故を望んでいるはずですが、事故は減少していません。この事故報告を参考に、重大事故はもちろん軽度の事故も防ぐためにはどうすればいいのか、考えていただきたいと思います。

いくつかの事例に「エラーチェーン」について記しました。エラーチェーンとは「さまざまな事象（エラー）が連鎖して事故が起こる」という考え方で、事故が一つの原因で発生することは稀であり、ほとんどの事故はいくつかの原因が重なって起こるといわれます。当事者が、あるいは第三者がエラーのチェーンを切ることができれば、事故は防げるのです。ここに報告する事故に限らず、身近なケースでも、どのようなエラーが重なって事故に至ったのか、自分が当事者だったらどこでチェーンを切るチャンスがあるか、考えてみてください。



【パラグライダー】

■1月7日 ツアー先の台湾にてスパイラルを練習、回復操作ができず墜落 死亡

【考察】

スパイラルのような難易度の高いアクティブフライトに関しては、専門知識を持ったインストラクターのもとで、気象をはじめさまざまな条件を考慮して慎重に練習を行う必要があります。また練習中に想定外のことがあったときも冷静に対処できるよう、十分な安全マージンを持ってフライトすること

も重要です。

【エラーチェーン】

この場所、この時に練習をする必要があったのか／適切な高度があったのか／事前のトレーニング・学習をどの程度していたのか、など。

■1月26日 栃木県 ラインが絡んだ状態でフライトし即ツリーランディング 死亡

ラインが絡んだ状態のまま離陸した結果、滑空比が悪くなりツリーランをしてしまった。運悪くハーネスが枝に引っかかり逆さに宙吊り、自重とハーネスベルトの圧迫により内臓へ負担がかかり最悪な結果となった。

【考察】

ラインチェックは本人が見落としのないよう行うのはもちろん、周囲にいる人も協力して、ライズアップ時に異常があれば声掛けして中止をさせることができるようにします。同じような事故にならないようにフライヤーの皆で注意していくべきことです。レッグベルトつけ忘れの防止についても同様です。

【エラーチェーン】

セッティング時間は適切だったのか／急いでいなかったか／テイクオフの風の状況はどうだったか／本人の余裕はあったか／フライトに適した日だったか、など。

■2月9日 オーストラリア テイクオフで潰されて墜落 重症

XC（クロスカントリー）フライトの発進地として有名なエリアでの事故。XCパイロットにとっての「好コンディション」でテイクオフする時は、サーマル交じりの乱流が吹き荒れることが多く、キャノピーが潰され易い。

【考察】

日本でも同じですが、テイクオフ直後の潰れは対地高度も低くクラッシュするとダメージが大きいため、サーマルが出始めた時から、細心の注意を払わなければいけません。

【エラーチェーン】

テイクオフのコンディションはどうだったか／自分の技量にあった機材を使用していたか／自分の技量にあったコンディションだったか／操作は適切だったか／潰れに対する適切な対処はできていたか、など。

■2月26日 栃木県 講習中に10mから墜落 重症

■3月19日 長崎県 片翼が潰れてスピンを起こし木に激突墜落 EN-Bクラスの機体 重症

■4月13日 静岡県 タンデムテイクオフ時に全潰れでツリーランディング 同乗者顔面強打

■4月24日 茨城県 XC時のランディングアプローチ中に失敗し電柱にぶら下がる 無傷

【考察】

XCを行えるコンディションであれば、収穫後の田畑など着陸スペースの確保がしやすい時期でしょう。しかし、その選択にミスをすれば重大事故にも繋がります。不慣れな地域に降りる場合は、風の向きや強さなどを観察し、余裕のあるグライドパス判断をすることが必要です。

電線接触による事故は過去にも多く発生しており、死亡に至ったケースも複数件あります。この事故では、救助に伴い周辺地域の電力供給を停止（約200世帯）。新聞にも掲載されました。たとえ怪我をしなくても代償は大きなものです。

XCでは高度な判断能力が必要になります。それは簡単に身につくものではありません。十分な学習と経験が必要です。

【エラーチェーン】

ランディングアプローチを含めフライト計画はどうだったか／アプローチの判断のタイミングは適切だったか／風の読み方はどうだったか／障害物回避は適切だったか／機材を適切に操れたか（滑空比調整）、など。

■5月4日 岡山県 ランディングアプローチ中に潰され墜落し体を強打死亡

サーマルコンディションの中での、ランディングアプローチ中に潰された。

【考察】

低空での潰れは最悪なタイミングであるため、絶対に潰されないように細心の判断と技術が求められます。また、サーマルコンディションでは局地風が入り乱れ、風向きの変化、風の強さも変化が激しくなります。こういった状況でも適切な操作を行う技術が必要不可欠です。

【エラーチェーン】

適切な操縦をしていたか／適切な機材を使用していたか／飛ぶ判断をすべきコンディションだったのか／適切な最終アプローチを行っていたのか、など

■5月7日 茨城県 Bストール練習時にツイストしてレスキューパラシュートを開傘 軽症

■5月7日 茨城県 B級技能証 風下に移動しすぎて戻れなくなりアウトサイドにハードランディング 軽症

■5月20日 奈良県 落としたレスキューパラシュートが何かに接触し墜落 無傷

1000m以上の高度で前縁部の潰れからダイブ、ツイストしレスキューパラシュートを投げようと出したら自然回復。投げるのを取りやめて、引き出したレスキューを抱えてフライトしていたが、途中で落下させて開傘し付近のロープウェイのワイヤーに接触した可能性がある。急斜面に墜落。

■6月24日 埼玉県 ランディングアプローチ中に電線に接触し落下 死亡

【考察】

指定着陸地から約150m離れた場所で事故が発生。気象条件は穏やか。何故この場所だったのか、普段と異なることをしたかったのか、それは分かりませんが、迷走した可能性もあります。迷わず指定地へ着陸していれば、何も問題は発生しなかったかもしれません。フライト中の迷いは事故リスクを上げることになります。初めて飛ぶエリアの場合には、必ずランディング場

を確認し、地形、障害物などを十分に理解してから飛ぶことが重要です。

【エラーチェーン】

フライト前に着陸場を理解していたのか／GPSは利用していたか／フライト中に着陸場を忘れて遠くへ飛ぼうとしたのか／判断のタイミングはどうだったか、など。

■7月26日 北海道 ビジターフライト 初めてのランディングアプローチにて判断ミス 電線に引っかかり切断 無傷

■9月23日 和歌山 NP技能証 深い360度旋回からスパイラルとなり落下 重体

深い360度旋回の練習がスパイラルとなり、指示どおりの操作を行うことができず、ビニールハウス横の空き地に落下した。

【考察】

アクティブフライト前には十分なイメージトレーニングを行い、操作手順などをしっかり理解することが必要です。特にミスを起こした時の対処法。加速が強まると無線の指示もヘッドセット付きでなければ聞こえません。装備、対地高度、気象条件等についても事前講習を受け、安全意識を高める必要があります。

【エラーチェーン】

技術レベルに相応の練習か／十分に理解して操作を行っているか／無線機は正常だったのか／指示がしっかりと聞こえていたのか／対地高度は十分だったか、など。

■10月6日 青森県 単独テイクオフ テイクオフのミスで地上10mほどの高さから落下 重症

クラブ員が誘い合わせ複数人で登山し、先行グループはフライトを完了したが、別行動の1名が登山せず別の場所でテイクオフ。テイクオフに失敗し約10mから落下した。

■11月12日 茨城県 NP技能証 地上でセット中に風で巻き上げられたグライダーとともに持ち上げられ落下重症（骨折）

地上でグライダーをセットしていたときにダストデビルのような突風巻き上げが発生し、ライザーを掴んだとこ

ろグライダーと一緒に体も持ち上げられ、地上7～8mから落下した。

【考察】

過去にも地上練習中に突風の影響で巻き上げられ、落下して死亡する事故が起きています。地上だから安心できるものではありません。

単独で地上練習中の事故もあるため、複数の人と行動することが必要です。

風が不安定な時、突風時にはグライダーをむやみに押さえつけるのは危険な場合があります。こういった場合にはカラビナを外し、エアーインテークを抑え込む。複数人が同様にして抑え込むことが安全です。

【エラーチェーン】

突風時の対応策の学習は十分だったか／風の見極めはできていたか／グライダーの抑え方は適切だったか、など。

■12月10日 茨城県 P技能証取得 20年のキャリア EN-Aクラスの機体でランディングアプローチ中に失速し落下 重症

【モーターパラグライダー】

■4月16日 静岡県 離陸直後に20m程度の高さから墜落 死亡

機材状況からユニット側のベルト固定部の破損が原因である可能性も考えられる。

【考察】

事故原因は断言できませんが、機材に何らかの問題があったとも考えられます。機材は、自分でチェックすることは難しい動力部以外について、劣化、摩耗などを日頃から点検することが必要です。

【エラーチェーン】

点検に漏れはなかったか／各部のパーツ破損時にはどのような問題が考えられるかシミュレーションをしていたか／操作ミスはなかったか／適切な機材だったのか、など。

■5月21日 山口県 海上墜落 死亡（新聞情報のみ）

■6月11日 千葉県 HG指導者 潰れにより河川に墜落 死亡

【考察】

フライト中の体調不良で気絶した可

能性もあります。事故には突発的な原因もありますが、いつもと違う体調の場合にはフライトを控える判断も重要です。

■7月2日 沖縄県 緊急着陸時に怪我 重傷

海上をフライト中にエンジントラブルにより、急遽、近くの海岸へ向かい着陸したが、失敗し負傷した。

【考察】

水上着陸は浮力体をつけていても高いリスクを伴います。万一エンジントラブルが発生しても陸地まで安全に戻れる距離をしっかりと保つようなフライトをするべきです。低空のフライトでは多くの事故が発生しており、最も重大事故になりやすいため、細心の注意が必要です。

■8月5日 神奈川県 離陸後きりもみ状態で墜落 死亡

【考察】

事故者は適切な教育を受けていなかった可能性があります。適切な技術レベルの機材を使っておらず、セッティングミスもありましたが、操作ミスが大きな事故原因と考えられます。

【エラーチェーン】

十分な教育を受けていたのか／自分に合った機材だったのか／自分の技術レベルをしっかりと把握していたか／機材セッティングは適切だったか、など。

■8月23日 神奈川県 海岸でタンデムフライト中に低空で墜落 怪我

【ハンググライダー】

■2月24日 和歌山県 C級技能証アプローチミスにより風を背負ってランディング 工場の壁に衝突し5mくらいから落下 軽症

■3月19日 茨城県 競技中ランディングアプローチで墜落 死亡

【考察】

競技に参加していた事故者はゴールした後、ランディングアプローチ中に突風に遭い、機体が煽られ墜落しました。シアラインの影響があったと考えられます。また、河川付近の場所ということもあり、局地前線を含め不安定な要素が重なったと思われます。

求む、アクシデント・インシデント情報

起きてしまった事故を二度と繰り返さないために、JHFでは安全性委員会が中心となって事故の報告をまとめ、フライヤー会員の皆さんに注意喚起する活動を続けてきました。

ところが、報告されない事故があります。推測するに、事故を報告すると「そのエリアやインストラクターに悪い影響があるのではないか」「スクールの評判が下がってしまう」「事故当事者に恥ずかしい思いをさせる」などの理由によるようです。

また、そのエリアのインストラクターが仕事に追われ時間がない、事故を目撃したものの報告の方法がわからないということもあるでしょう。

そこで、前号でお知らせしたとおり、事故の目撃情報をJHFウェブサイトから簡単に報告することができるように

しました。事故を目撃したら、どんなでも、会員トップページから「事故情報収集ページ*」に入り、日時や場所、事故の状況などをわかる範囲で入力、送信してください。

報告という気後れしてしまいそうですが、同様の事故を繰り返さないための情報集めに、ご協力をお願いします。情報を共有することで事故を減らしていきましょう。

フライヤーが怪我をしていなくても、機体が壊れていなくても、また、事故にはならなかったけれどヒヤリとしたりハッとしたインシデント体験についてもぜひお知らせください。

*事故情報収集ページ：JHFウェブサイト、会員トップページのトピックス欄の左側、フライヤーサポートデスク欄の上に入口があります。

2018年競技スケジュール

2018年競技シーズンがこの1月1日からスタートしました。

以下は2017年1月上旬の時点で開催が決定しているJHF公認のリーグ大会です。このほかの大会情報は、JHFウェブサイト、パラグライディング競技委員会／ハンググライディング競技委員会のページに掲載していきますので、ぜひご確認ください。

【PG】

□スカイグランプリ2018 in 紀の川
3月3日(土)・4日(日)

和歌山県紀の川フライトパーク

□上越市長杯パラグライダー尾神カップ2018

5月26日(土)・27日(日)
新潟県尾神岳スカイスポーツエリア

□2018鳴蔵カップ

6月9日(土)・10日(日)

新潟県魚沼市

□鶴来の夏祭り!!獅子吼高原カップ2018

7月28日(土)・29日(日)

石川県白山市

□平和カップ2018 in 広島 (J2)

10月7日(日)・8日(月/祝)

広島県神の倉山・荒谷山エリア

□新潟県知事杯争奪尾神岳スカイグ

ランプリ2018

10月27日(土)・28日(日)

新潟県尾神岳スカイスポーツエリア

□2018スカイグランプリ in ASAGIRI

12月 静岡県富士宮市

□2018朝霧カップ (J2)

12月 静岡県富士宮市

【PGアキュラシー】

□パラグライディングアキュラシー
グランプリ in ASAGIRI 第1戦

2月17日(土)

静岡県富士宮市朝霧高原

□パラグライディングアキュラシー
グランプリ in ASAGIRI 第2戦

2月18日(日)

静岡県富士宮市朝霧高原

【HG】

□2018紀の川スカイグランプリ
2月9日(金)～12日(月/振替休日)

和歌山県紀の川フライトパーク

□2018板敷山スプリングフライト
3月21日(水/祝)～25日(日)

茨城県石岡市板敷山エリア

□2018ハンググライディング日本選手権IN第29回西富士ジャパングラシック

11月22日(木)～25日(日)

静岡県富士宮市朝霧高原

安全で楽しいフライトのために

各地で活躍する教員検定員23人〈3〉

昨年3月、教員検定員の任期満了に伴い、JHF教員検定員研修検定会を開催。研修を受けた後、学科試験、5分間スピーチ、実技検定を通過した23人が新教員検定員として活動を開始しました。

それぞれ日本のハング・パラグライディング界をリードしてきた23人の横顔を、毎号紹介していきます。今回は、この6人です。



岩橋 亘 (静岡県)

教員検定員の役務は簡単にまとめるのと次の4つとなります。

- ①教員検定会実施
- ②教員助教員更新講習会の実施
- ③安全フライトセミナー実施
- ④事故調査の実施

教員検定員のつとめは、フライヤーのための原点に戻り、教員の資質やレベルの向上に努力することに尽きると思います。定期的に研修を行い常に勉強し新しい理論や教え方など向上心を持って研究しています。

さてここで一般フライヤーから見た現状はどうかというと、スクール生やパイロットに必ずしも還元されていないのではないのでしょうか。教員検定員の中だけの自己満足的なシステムになりがちな現状を変えていかなければと痛感しています。

パラグライダーの操縦方法しかり、バランス感覚はどんな場面にも必要なもので、このバランス感覚が崩れると美しくないですよ。

加齢による事故の原因もバランス感覚のずれから起きているのではないのでしょうか。的確なアドバイスができる教員検定員であればバランス感覚のずれを指摘しきつと安全性の向上に繋がりますよね。

空を飛ぶということは本当に楽しいものですね。この楽しさを多くの方々に伝えながら、これからフライヤーになる次世代にさらに盛り上げていただくために、このバランス感覚をもって、より分かりやすい活動をしていきたいと思っています。



片岡 義夫 (大阪府)

1986年に第1回の検定会で教員の資格を取得し、その後検定員としても長く務めさせていただいています。

この30数年でJHFの教員講習や検定の内容は大きく変化しています。

360度旋回できたらパイロット！とされた初期から、ピッチング・ローリング・コラップス等の技術が急に出てきたバブル期、その後人口減少対策で手軽に教員検定を受けられるようになり、今、再び事故が減らないことから教員のレベルを高める動きになっています。

加えて体育協会のテキストを取り入れ、ただ「飛び」が上手だけでなく、万人に正しく理解しやすい説明や模範を示す能力、そして社会人としても「教員・指導者」と呼ばれるにふさわしい言動が求められます。

私自身が検定員として、そのレベルかは「？」ですが、検定会や濃い教員の方々へ講習会を行うことによって、自分自身も努力するモチベーションになっています。

なお、検定員に対し、お土産や受講料以外の現金は不要です。それでの付度は一切無いので……。



金井 誠 (山形県)

飛ぶことがただ好きで飛び続けていたら30年たってしまいました。教員としては、教え子が立派なパイロット・立派な社会人となってその子供や孫が飛び始めるのをまたサポートすることができるのは感慨深いものがあります。

最近ではパラグライダー用の車椅子を開発し、障害者体験タンデムフライトや脚が不自由な方がパイロットになるための講習に取り組んでいます。健常者でも障害者でも飛べた時のあの喜びの笑顔を貰えるのは教員として一番の喜びです。

反対に事故は一瞬で全てを台無しにしてしまいます。事故なく皆が楽しめ

ることが何よりフライヤー増加に繋がると思います。良い先生が増えて、良い講習とエリア管理を各地でしてくれれば事故は無くしていけると信じています。

教員検定だけでなく、更新時講習会や各種講習会で、精一杯、楽しく安全なフライトに繋がる講習をしていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。



下山 進 (埼玉県)

JHF主催の1992年指導者研修会運営委員を皮切りに2007年まで教習検定委員、その後現在に至るまでスクール事業委員会の業務に携わってきました。当初は全国からの教員応募者が毎年100名以上いたものの年々減少の一途を辿り、昨今では数名程度の新規教員が誕生するに留まっています。当時30～40歳だった教員も60歳以上へと高齢化が進み、年齢的にも新たな教員による若返りと後継者の育成が必要不可欠な状況です。

この新たな教員の全国統一レベルでの指導、知識、技術、育成、検定を目指し、スクール事業委員会委員として、また教員検定員として、教員検定、教員・助教員更新講習会、安全セミナー等、活動の一翼を担っていきたいと思っています。



中村 ヤスヲ (神奈川県)

2008年の教員検定員制度の開始から9年間検定員になり、教員・助教員の県連事業として毎年更新講習会を開催してきました。そこでPG教員・PG助教員には、飛行技能・教習技能・気象知識・空力知識・柔軟構造翼の知識・救命救急技能・飛行機材の知識・飛行計器の知識・緊急時の対応技能&知識、リパック技能、保険の知識等の広範囲な技能&知識が必要なことを痛感しました。本年はこれら広範囲の技能要点・知識の要点をゲーム問題に変えて広報

していききたいと思います。

また、近頃は覚えることより忘れることが多くなりました。そこで、自分が忘れないように、会報・講習会で、役に立つと思う新技能&知識の要点を広報していきます。一例として、★ツリーランからの回収 ★ブッシュランからの回収 ★リパック新機材 ★機材点検の重要ポイント

皆様へもお願いいたします。役立つ情報がありましたら、教員・検定員にお知らせください。

私の好きな言葉は、「知識は、身を助ける」「練習は、不可能を可能にする」「人類は、道具を使う」です。

正確な知識の習得&これを使い判断する・時間のある時は立ち上げ&グラハン練習をする・機材を点検&使い易いように改善することをモットーにし、2018年は、新技能・新知識の要点

を習得して、安全な飛行・安全講習&検定を継続していきます。



目黒 敏 (静岡県)

パラグライダーの普及・振興・発展のためのもっとも重要な基礎となるものはスクールに他なりません。そして私は、そのスクールを支える教員の皆様の知識と技能の向上を支えていきたいと思います。私自身はヨーロッパを中心としたパラグライダー機材の輸入・販売とスクールを行っているため、開発チーム・デザイナーとの交流があり、機材や技術に関しての知識を得やすく、スクールの現場の理解もしやすい立場にあります。必要であれば、すぐに海外へ問合わせ・情報を集めるこ

とができます。そのような活動から、日本国内のJHF教員・スクールの皆様の業務が、世界へ通じる知識・言葉・行動で行われるようにお手伝いしていければと考えています。

教員技能証学科検定の

集合研修検定会を開催します

今年度より教員技能証検定は実技検定と学科検定を別に受検していただくことになりました。実技検定は各地の検定員が検定を行い、学科検定は集合による研修検定会を行います。

集合検定の目的は、全国の教員レベルを一定に保つこと、研修会で教員に必要な知識や技術、指導者としての心構えを新教員研修で学ぶこと、教員同士の横のつながりを持ってもらうことです。開催日等については今号16ページをご覧ください。

学連ニュース

寒い季節になりました。雪に苦しめられる時期ですね。

こんには。日本学生フライヤー連盟 (JSFF) の堀聡史です。まずは大会の報告をさせていただきます。

10月28日、29日の2日間、十分一エリアにてピンクカップが開催されました。また、11月11日、12日に同じく十分一エリアにてPG新人戦が開催されました。しかし両大会とも天候不順のため競技不成立。特にピンクカップでは台風を呼び寄せてしまいました。

また、ピンクカップでは諸々の対応が遅れ、社会人の方々に多大な迷惑をおかけしました。他の大会でも、運営が毎年交代してしまうため、毎年同じような迷惑をかけてしまっていることが多々あるかと思います。この場を借りてお詫び申し上げるとともに、少しでも改善されるよう動いていきますので、ご協力をお願いします。

話は変わりますが、今年初飛びの1年生にその時の新鮮な感想を書いてももらいました。ここからは田原さんにバトタッチします。

東京都市大学のスカイスports部に所属している1年生の田原佳歩です。

私は2017年7月15日に初めて山から

飛びました。幼い頃から観覧車に乗ったり飛行機に乗ったりすることが好きで、パラグライダーを始めたのも空からガラスを通さずに地球を見てみたいと思ったからです。その夢が叶ったのが7月15日です。

講習場で練習していた時、私は初飛びをとて大きな目標としていました。なので、空を飛びたいと強く思えば思うほど自分のうまくいかない部分や情けなさに腹が立っていました。しかし、山から飛んでみると今まで腹が立っていたことがとても小さなことに感じられ、講習場でたくさん練習を重ねたことは私にとってとても大切なことであつたと知りました。また飛んでいる最中の風を切る音、太陽の光、地上を走る車や小さく見える家など、初飛びの時感じたものはどれも新鮮で繊細で美しいものでした。そして降りる時にはインストラクターや先輩、同期たちが鮮明に見えて、今まで私を励ましそして成長させてくださったことを思い出して目頭が熱くなりました。初飛びはテイクオフからランディングまで全てかけがえのない思い出です。

あの日空から見た景色を私は忘れることはないでしょう。今は何本も飛び、飛ぶことを当たり前のように感じるがあります。しかし初心に返って空

を飛ぶことの楽しさや緊張感を感じながら飛ぶことによって、いつでも初めて飛んだ時と同じ感動や学びを得ることができていると思っています。

私の飛びはまだ始まったばかりです。P証を取り自由に空を飛びまわるのが現在の目標です。これからもたくさん飛び、経験を重ねて成長し、私の人生においてパラグライダーを大切なものとしていきたいです。



かけがえのない思い出、初飛びのランディング。



初飛びの感激をみんなで分かち合うことができた。

中川・中目が優勝、台風に阻まれ日本一決定はならず。

2017年9月15日～18日 茨城県石岡市足尾山エリア 報告：大会実行副委員長 北野 正浩

パラグライダーの競技選手日本一を決める日本選手権が、茨城県石岡市の足尾山エリアで開催された。参加者67名。カテゴリー2で開催したことにより、日本全国各地に加えて香港から3名、ロシアから1名の選手も参加した。

大会初日

高気圧に覆われて晴天。台風が接近しているが、まだ影響は少ない。本流は北西の弱風で、サーマルブローが入れば東に飛べる可能性もあったため、東西どちらにも飛べるハングテイクオフに集合。

ブリーフィング中も北西風が続いたため、西風を前提としたタスクが設定された。燕山～筑波山の山沿いを南北に往復した後、東側の八郷盆地の沖に出し、北西方向の平野に出て、さらに南下して鬼怒川沿いの関城ゴールという51.5kmだ。

山沿いの区間ではサーマルの間隔も狭く、上げては走り、抜きつ抜かれつのレース。後半の平地のフライトでは慎重にコースを選びながらの展開。足尾エリアを攻略するには、山沿いと平地のそれぞれに応じたリフトの探し方を身につけた上で、有利なコース取りを判断する技術が必要だ。

八郷盆地内のターンポイントをこなした選手たちは西の平地に出て、ファイナルグライド勝負へ。和田が集団に

3分差をつけてゴール。その後、廣川、アンドレイ、高杉、稲見、中川が集団でゴール。さらに唯一のシリアル機の中目がゴール、植田も続いた。

大会2日目

台風の影響で雲が張り日射は弱いがリッジが使える東風。薄日が射せばサーマルもできて、ゴールできる可能性も見えた。しかし、集団で山沿いを慎重に進むうちに風も日射も弱まり、1人また1人と脱落していく。粘りに粘った平木が13kmを飛んでトップ。上山、中川、アンドレイらが僅差。デイクオリティー0.079でトップ70点ながら、初日も僅差だったため順位の変動があった。

大会3日目

台風による雨のため競技キャンセル。

大会4日目

台風一過の晴天だが北西風が強い。午後には次第に風がおさまる予報のためテイクオフでウェイティング。しかし14時の時点で風速が8m/s以上あったため競技キャンセルを決定。

日本選手権としては成立せず、日本選手権者を決定することはできなかった。しかし2本のタスクが成立し、ジャパンリーグ大会としては成立。特に初日は充実した内容の競技ができた。

総合優勝は中川喜昭。クロスカントリーの国内記録163kmをこの足尾山エリアで出している。

スポーツクラス優勝、さらに女子優勝は中目みどり。同じくクロスカントリーの国内女子記録130kmを、やはりこのエリアから達成している。初日にスポーツクラス機でただ一人ゴールという快挙を果たしたことも特筆したい。

成績

[総合]

1位	中川 喜昭	茨 城	1008点
2位	Eliseev Andrey	ロシア	1005点
3位	稲見 祐二	愛 媛	1002点
4位	和田 浩二	静 岡	1001点
5位	廣川 靖晃	静 岡	1000点
6位	高杉 慎吾	広 島	965点

[女子総合]

1位	中目みどり	東 京	939点
2位	平木 啓子	静 岡	585点
3位	高橋 美佳	埼 玉	447点

[スポーツクラス]

1位	中目みどり	東 京	939点
2位	花村 泰明	東 京	503点
3位	高橋 美佳	埼 玉	447点



総合トップ6の選手たち。後列中央が中川選手。



女子入賞者。左から2人目が中目選手。



スポーツクラス入賞者。中目がみごと勝利。



初日の山沿いは抜きつ抜かれつのレースに。空撮：中目みどり選手

初日ファーストゴールの松田隆至、日本選手権者に！

2017年11月2日～5日 茨城県石岡市足尾山エリア 報告：大会実行委員長 板垣 直樹

毎年11月の比較的安定したサマーの渋い時期での大会だが、今回は4日間全ての競技が成立し8名のゴール者が出た。

今回からClass I と完全に分けての大会だったために参加選手は11名と少なかったがClass I も同タスクで競技を行っており全体では37名の参加となった。

好条件でスピードレースあり、激渋のコンディションでゴール者なしの生き残りゲームあり、寒冷前線の影響でタスクストップありのハードな4日間だったが内容の濃い大会となった。

11月2日：競技初日

タスクは足尾TOーサル公園鉄塔ー風車南ーつくばね国民宿舎ー栃木富士テストコースゴール、42.9km。

Class I と同タスクでClass Vにとってダミーの多い中での競技となる。Class Iの氏家選手が常に先頭を飛び松田・佐々木両選手がこれに続く展開。

西側の平野の渋いサマーで高度を下げないように丁寧に飛んだ松田選手が1時間を切るタイムでこの日のファーストゴール。西側平野ではコースや時間によって全く上がらない時間帯もあり、この後ゴールしたのは佐々木・星選手の3選手にとどまった。

11月3日：競技2日目

足尾TOー不動峠ー風車南ー小山大橋ー益子ゴール、65km。

テイクオフ近辺の山並みは1100m程まで上がり順調に思われたが、西の平野が激渋でゴール者は出なかった。この日、最長距離を飛んだのは山本選手。平野に出てからは高度200mから700m程でサマーをつなぎ粘ったが、ターンポイントの小山大橋をとれた選手はいなかった。平地が渋かった原因として緩やかな気圧配置による高気圧の沈降性の逆転層が考えられる。

11月4日：競技3日目

足尾TOー益子駅18kmーつくばイーアス18kmー益子駅18kmーつくばイーアス17kmー益子駅16kmー西ハングラディングゴール、37km。



最もコンディションに恵まれた最終日。雲のある山並みへ。空撮：松田隆至選手

午前中は晴れ。午後は寒冷前線の通過に伴い、ところにより雨の予報。寒気の影響で大気が不安定で、雲底は低いがサマーは活発だった。14時20分頃から近辺で降雨を観測し14時40分にタスクストップとなった。この日21.4kmを飛んだ岡田選手がトップとなる。

11月5日：競技4日目

足尾TOーつくばイーアス18kmー五叉路ー日光男体山25kmー西ハングラ

ディングゴール、53km。

西高東低の気圧配置が急速に弱まり上空に寒気も入り4日間で最も良いコンディションとなった。12時45分一斉スタート。ほとんどの選手が雲底からほぼ同時にスタートし、Class I の太田選手を先頭に先頭集団がターンポイントの五叉路をとり、雲のある山並みに飛ぶ。雨引き観音上空からまっすぐ平野に向かう者と北西の山に向かうグループに別れる。西側の雲底は1300m



パイロットブリーフィングでタスク説明。



4本の激戦を勝ち抜いた松田選手と入賞者。



全競技を終えて選手も役員も笑顔でお疲れさま！

程まで下がるが順調に飛んだ岡田選手が単独でトップゴールを決めた。ゴール者は5人だった。

ClassVで日本選手権が始まって10年。ベテランの松田選手が安定した飛びで2位以下を大きく引き離して優勝し、板垣に続き2人目のClassV日本選手権者となった。

成績

[ClassV]

1位	松田 隆至	東京	2981点
2位	岡田 伸弘	静岡	2382点
3位	宍戸 俊之	茨城	2207点
4位	山口 裕之	東京	2021点

5位	柳田 崇	茨城	2010点
6位	佐々木則生	埼玉	1960点

[ClassI] (参考)

1位	鈴木 由路	東京	2331点
2位	氏家 良彦	兵庫	2277点
3位	佐野 容子	和歌山	2257点

日本選手権者から

□松田隆至

良い気象条件の日がなかなか続きませんでした。この4日間は好天に恵まれ4本成立の競技ができ、そこで優勝できたことを大変うれしく思っています。少し残念なことは、クラスV参加者が11名しかいなかったこと。そして日本ではクラスVの競技会はこの大

会しかないこと。年一回の大会だけでは競技スキルの向上は厳しいです。ヨーロッパではクラスIとVを一緒にしている大会がたくさんあります。

最近のクラスVハンググライダーは、コントロールが軽く簡単で性能もよく、私のような高齢で筋力体力のない者でも、いいフライトができます。ぶっ飛ぶことはほとんどありませんし、疲れないので長時間飛んでいられます。性能が良いので自分の空が広がります。あなたもクラスVで飛んでみませんか。

最後になりましたが、素晴らしい大会を毎年開催していただいているJHF、大会役員とスタッフの皆様に感謝申し上げます。

ハンググライディングシリーズ／パラグライディングジャパンリーグ 2017年ランキング頂点に立ったのは？

リーグ戦を勝ち抜いたパイロットたち／2017年の競技を振り返って

12月31日で2017年競技シーズンが終了。ハンググライディング、パラグライディング、それぞれのリーグ戦のランキングが次のように決まりました。年間チャンピオンとなった皆さん、おめでとうございます。また、大会の企画運営にあたられた皆さん、お疲れさまでした。

この1月1日から2018年競技シーズンがスタート。天候に恵まれ充実した競技ができることを祈ります。

ハンググライディングシリーズ

[総合]

1位	田中 元気	東京	3658
2位	板垣 直樹	茨城	3444
3位	太田 昇吾	茨城	3420



ブラジルでの世界選手権。大きな台地からテイクオフ。

4位	鈴木 博司	岐阜	3350
5位	鈴木 由路	東京	3294
6位	砂間 隆司	鳥取	3291

[女子]

1位	佐野 容子	和歌山	3021
2位	鈴木 皓子	大阪	2054
3位	野尻 知里	茨城	1689

[世界選手権選抜総合]

1位	砂間 隆司	鳥取	273.09
2位	田中 元気	東京	255.02
3位	加藤 実	愛知	251.49
4位	板垣 直樹	茨城	246.00
5位	鈴木 博司	岐阜	245.47
6位	鈴木 由路	東京	244.86

[世界選手権選抜女子]

1位	佐野 容子	和歌山	171.96
2位	鈴木 皓子	大阪	147.19
3位	野尻 知里	茨城	144.07



総合1位
田中 元気

過去3年が、2位、3位、2位と続



和歌山での日本選手権は強風と積雪により不成立。

いていたのですが、1位になることは難しく、悔しく思っていたので、ランキング1位になれて本当に嬉しいです。

池田山の大会で元世界選手権者のクリスチャン選手と戦えたのは非常に楽しかったですね。また、2017年は第21回ハンググライディング世界選手権 in ブラジリアに参加しました。総合成績では奮いませんでしたが、デイリートップを取れたのは大きな出来事でした。

昨年の成績で、2019年、イタリアでの世界選手権出場の内符も決まりましたので、出場に向けて環境を整えていこうと思います。

今年も頑張るぞ！



女子1位
佐野 容子

2016年5月に大怪我をし、2017年1月オーストラリア・フォープスで大会復帰。その後コロンビアでDustinマンツーマンレッスン受講後、大会参加。7月にはメキシコで、Rudyマンツーマンレッスン受講後、ブラジル世界選手権参加。もちろん国内大会にも参加し、一昨年のマイナスを埋めるべく精一杯フライトに取り組んできました。その結果、女子トップ、総合で自己最高の9位を収めることができました。

今回、初の年間優勝は田中元気選手。田中の実力はここ数年のランキングを見ても安定していて当然の結果ともいえる。

以前、田中はスピードはあるが成績にバラつきのある若手選手の一人だったが、その中で一人抜け出た。田中の実力は昨年、世界選手権ブラジル大会で世界の強豪がひしめく中で唯一のゴール者となったタスクも記憶に新しいところだ。

また今回、初めてトップテン入りの選手は2名で、その一人が鳥羽選手。鳥羽は各大会で着実にゴール

を決め年間10位となった。

女子1位の佐野選手は総合でも9位に入り、女子選手として過去最高位となった。

全体で20位までのBシードはほとんど選手の入替わりは無く、Cシードの21~30位の選手に20代の若手選手が4人入ったのは良かったが、今年はこの選手達に更なる成績を出してもらい、世代交代となるように頑張ってもらいたい。

今回からルールが変わった世界選手権選抜ランキングは、1年前倒しになって2019年のイタリアでの代表

メンバーが決まった。

世界選抜ランキングでは砂間選手が1位となり、その安定化を示す結果を示した。

HGシリーズの大会は西富士ジャンクラシックに始まり、紀ノ川スカイグランプリ、板敷スプリングフライト、池田山カップ、イーストジャンパンチャンピオンシップ等で、毎年の開催を感謝したい。また、競技のレベルアップや選手の増加や活性化に期待できるので、新たに大会を開催してくれるエリアも望まれるところだ。

たくさんの方々からサポート、アドバイスをいただき、また海外で自ら積極的に教えることで、昨年はメンタル等のソフト面を大きく変えることができたと思います。ただ、体は以前の半分程度のレベルでしかないので、相対的なバランスを考慮し、今年はより柔軟な姿勢で更なる飛躍を目指したいと思います。

応援してくださった皆様、ありがとうございました。

パラグライディング ジャパンリーグ

[総合]

1位	岩崎 拓夫	京 都	5285.2
2位	上山 太郎	大 阪	5214.3
3位	呉本 圭樹	東 京	5184.2
4位	稲見 祐二	愛 媛	5171.3
5位	廣川 靖晃	静 岡	5102.2
6位	荒井 大悟	千 葉	5072.8

[女子]

1位	平木 啓子	静 岡	4933.5
2位	山下 敦子	兵 庫	4736.0
3位	中目みどり	東 京	4080.8

[スポーツクラス]

1位	中目みどり	東 京	4048.7
2位	阿知波広和	愛 知	3711.6
3位	川名 美江	静 岡	3470.6
4位	橋本 耕一	埼 玉	3399.7
5位	梅岡 翔吾	栃 木	3064.1
6位	早坂真有美	東 京	3015.5

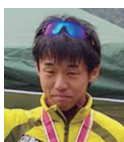
[2016-2017年日本代表選抜]

1位	呉本 圭樹	長 野	246.7
----	-------	-----	-------

2位	岩崎 拓夫	京 都	246.1
3位	上山 太郎	大 阪	242.9
4位	廣川 靖晃	静 岡	240.5
5位	稲見 祐二	愛 媛	238.8
6位	中川 喜昭	茨 城	220.0

[2017年日本代表選抜]

1位	呉本 圭樹	長 野	175.5
2位	稲見 祐二	愛 媛	169.3
3位	岩崎 拓夫	京 都	167.8
4位	望月 奈緒	埼 玉	162.6
5位	荒井 大悟	千 葉	154.5
6位	廣川 靖晃	静 岡	151.5



総合1位
岩崎 拓夫

ジャパンリーグ1位のタイトルがなかなか取れず、苦しい時期を過ごしてきたことを考えると、今回の1位は素直に嬉しいです。

2017年は、とにかく高い点数が取れるような飛び方にこだわって練習してきました。その中でも、「迷わず自分の意志で飛ぶこと」が結果につながったのだと思います。何戦かは集団の先



日本選手権は不成立ながら中川・中目が優勝。

頭を引っ張る飛びができ、たくさんの課題を見つけられました。

この課題を克服して、2018年ワールドカップでシングル入りを目標として頑張っていきます。

最後に、大会関係者・応援してくださいました皆様、本当にありがとうございました。2018年もよろしくお願いいたします。



女子1位
平木 啓子

2017年は待ち望んだ最新高性能機で戦えることとなりましたので、更なる躍進をと気合を入れて臨みました。ところがいつもレース後半の詰めで失敗し、優勝を逃してしまっただけの年でした。ただ大ゴケはせずに平均的に良い点を取り、なんとかJリーグランキング女子優勝することができました。アベレージヒットは私の持ち味ですので、私らしい優勝とはいえますが、嬉しい気持ちかといえは微妙です。理想はやはりきっちり優勝を重ねて年間勝



イタリアでの世界選手権は47カ国が参加した。



世界選手権での平木啓子選手のテイクオフ。

者の名誉を勝ち取りたいです。

昨年のミス进行反省して修正し、今年こそ躍進の年となるよう頑張りたいと思います。



スポーツクラス

1位 中目みどり

憧れのスポーツ年間入賞、2015年初めて3位に入り、翌年2位。とはいえ順位を目標に立てるタチではないので、よし今年は優勝！と意気込んでいたわけではないですが、後半戦になるとやはり意識しました。

2018年からはオープンクラスになるため、スポーツクラスを優勝で"卒業"でき

ることをとても嬉しく思います。特に足尾では「何かが見えた」ような飛びができ、地元で錦を飾れたのはとても嬉しかったのですが、その後は何も見えてこず……。相変わらずの大波小波、去年も同じようなこと書いていたっけなあ。

まだまだ道は険しく、だからこそコンペは面白いですね。

2017年もたくさんの人が入れ替わり立ち替わりスポーツ表彰台に乗りました。ニューフェイスも台頭し、激戦のスポーツクラスは今年も益々盛り上がるでしょう。そう、次はアナタの番です！

最後になりますが、大会開催にご尽力いただいているみなさま、本当にありがとうございます。これからもよろしくお願いいたします。

パラグライディング ジャパン2リーグ

[総合]

1位	佐野 恵治	静岡	1951.0
2位	石井 旭	兵庫	1893.0
3位	畑中 義美	大阪	1797.0
4位	村田 好彦	埼玉	1734.0
5位	宮田 清和	兵庫	1684.0
6位	橋本 泉	埼玉	1636.0

[女子]

1位	畑中 義美	大阪	1797.0
2位	橋本 泉	埼玉	1636.0
3位	田村 康子	神奈川	1236.0

[チーム]

1位	飛魔人くらぶA	6.0
1位	丹波パラグライダークラブA	6.0
1位	ワークマン	6.0



総合 1位 佐野 恵治

J2リーグ初出場初優勝。寒中の小春日和のようなほのぼのとしたハッピー感についてニヤけます。

朝霧カップ初日、トップゴールおめでとう、との友人の言葉に、いや〜地元ですから、と照れ笑い。ひたすら朝霧に棲息すること29年、少なからず一日の長というものがあってしかるべきとの思いでした。

最近では日向ぼっこみたいな飛びが好みだとうそぶきますが、たまにコンペにも出ます。一斉スタートのパイロンレースは胸高鳴る愉しさに満ちてい

2017年の競技を振り返って

パラグライディング競技委員長 岡 芳樹

Jリーグは8大会開催され2大会は成立しなかったのが残念であった。またポイント計上できる成立本数は8本と少し少なめであった。大会参加する選手数は多くなってきており、セクションを行った大会が2大会となった。できるだけセクションをせずに希望する選手全員を参加させられれば良いのだが、テイクオフスペースと空域の狭さの関係で、日本のエリアでは大人数でレースタスクをするのは難しいのがネックとなっている。また、日本選手権

を足尾で開催して2本のタスクが成立したが、ルール上残念ながら日本選手権としては不成立となってしまったのが大変残念だ。

J2リーグは今年例年より1大会増え3大会となった。できれば年間5大会ほどできるとシリーズ戦としての楽しみも増え、盛り上がるのではと期待している。開催に際して最もネックとなるスコアリングに関しては競技委員会からスタッフをJHF予算で派遣することができるので、エリア関係者の皆さんに是非ご検討

をお願いしたい。

アキュラシーリーグでは5大会が開催され、すべての大会が5ラウンド以上の成立であった。大会数が少ないので残念であったが、内容としては充実していたのが幸いであった。また日本選手権は初めて池田山エリアで開催し、メインスポンサーから賞金が出たこともあって海外からも選手が参加して大いに盛り上がった。それでもその他のリーグ戦の参加選手数が少ないのが今後の課題となっている。

ますね。

今回、地上の星、市井のコンペティターにもっともっとJ2に参加して欲しい気持ちになりました。程々のグライダー程々の距離で一緒に楽しみましよう。J2はパーティもあるですよ。(^^)



女子1位
畑中 義美

最初の頃ホームエリアでブカブカ飛んでいると30分で飽きてしまったり、少しの揺れで酔ってしまってすぐ降りるという超淡白な飛びしかしていなかった私ですが、右も左もまったくわからないまま2年前の年末、朝霧の大会にエントリーして競技に初めて参加してみました。

ホームが紀の川(高低差285m)だったので、朝霧の山々を渡るエリアに翻弄され、ハイウェイにやっとの思いで乗っても気流が荒れる中手が凍りつき10分で撤退した頃がとても懐かしいです。

今回のJで、やっと少し大会のレースが解った気がします。表彰台初めての一番高い所。とても感動です。

パラグライディング アキュラシージャパンリーグ

[スクラッチクラス総合]

1位	岡 芳樹	東京	161.4
2位	塚原 隆信	茨城	132.7
3位	和田 浩二	静岡	113.3
4位	横井 清順	静岡	112.6
5位	古田 岳史	埼玉	109.9
6位	吉富 周助	山梨	87.1

[スクラッチクラス女子]

1位	伊藤まり子	愛知	69.5
2位	平木 啓子	静岡	28.5
3位	山口 香代	東京	22.9

[ハンディキャップクラス総合]

1位	横井 清順	静岡	123.8
2位	古田 岳史	埼玉	118.7
3位	塚原 隆信	茨城	102.0
4位	古賀 光晴	北海道	87.9
5位	平野 竜二	兵庫	87.2
6位	菊田 高司	埼玉	84.4

[ハンディキャップクラス女子]

1位	伊藤まり子	愛知	48.2
2位	宮手 裕子	山形	43.7
3位	橋本みさ紀	大阪	35.9

[チーム]

1位	のびのび	34.0
2位	ゆるゆる	26.0
3位	Airkassy	23.0



スクラッチクラス
総合1位 岡 芳樹

2017年は大会が少なく、また私のスケジュールの都合がつかなかったこともあり3大会しか参戦できなかった。それでも地元開催となる朝霧での2大会でトップをとれたことで何とか首位を守ることができてほっとしている。これで今年、タイで開催される第1回アジア・オセアニア選手権およびインドネシアで開催されるアジア大会に日本代表で出られることとなり、大いにモチベーションが上がった。

この2大会で納得のいく成績を残し、さらには今年の日本選手権者となるよう、体調管理をしながら練習に励んでいきたい。アキュラシーは奥が深く、いつまでたっても発展途上にいることは変わらない。



アルバニアでの世界選手権。美しいビーチで熱戦展開。



スクラッチクラス
女子1位 伊藤まり子

2017年のアキュラシーリーグの女子優勝ということではありますが、2017シーズンは大会が少なく、参加できない大会もあったので、必死にがんばって勝ち取った優勝ではない寂しさを感じています。

そんな中でも、日本選手権の最終ラウンドでは初めて公式戦で「0」を踏めて、アキュラシーを始めた頃からの目標が一つ達成できたことと、それを仲間が見ていてくれて一緒に喜んでくれたことはとても嬉しかったです。

素敵な仲間たちと一緒に、これからもアキュラシー競技を楽しみたいと思います。

オリンピックの正式種目になり、アキュラシー競技がもっともっと盛り上がっていくことに期待しています。



池田山での日本選手権は8ラウンド成立。

2018アジア大会情報

今年8月18日～9月2日にインドネシアで開催されるアジア大会のパラグライディング競技に関する取り決めをお知らせします。

①2018アジア大会において、以下のパラグライディング2種目6競技を実施する(同じ選手がすべての競技に参加)。メダルはINASCOGより提供される。

- ・クロスカントリーチーム(男子/女子)
- ・アキュラシー(男子/女子)
- ・アキュラシーチーム(男子/女子)

②アキュラシーとクロスカントリーは同日には行わず、別の競技として実施。

③2018年初めにインドネシアで開催されるアキュラシーの大会に併せて、パラグライディングアキュラシー国際審判員のためのトレーニングセミナーを実施する。

④競技はFAI及びASFAの承認の下、FAIスポーティングコードセクション7の規則に則って行う。

⑤競技者は有効なFAIスポーティングライセンスを所持していなければならない。FAI会員ではない国、あるいは資格停止となっている国については、FAI事務局長がスポーティングライセンスを発給してもよい。

JHFからのお知らせ

■教員技能証を受検する方へ

今号9ページでお知らせしたとおり、今年度より教員技能証は実技検定と学科検定を別に受検していただくことになりました。実技検定は各地の検定員が検定を行い、学科検定は集合による研修検定会を行います。

近年の教員受検者数は1年に数名程度と、全盛期に比べると10分の1にも満たない数字です。もう一度スカイスポーツが活気を取り戻すために、教員の質の向上は重要なポイントと考え、教員技能証学科検定の集合研修検定会を開催します。

日程:2018年2月26日(月)~28日(水)

場所:JHF事務局(変更もあります)

参加費:20,000円(交通費、宿泊等は受検者負担)

*実技検定前に学科検定を受検することも可能です。

*研修会にはすでに教員や助教員技能証をお持ちの方も参加することができます(受講料10,000円)。

詳細はJHF事務局にお問い合わせを。

■補助動力副読本を頒布しています

「JHFパラグライディング教本副読本[動力付きパラグライダー(補助動力技能証/MPG技能証課程)]」を頒布中。

動力を使用したパラグライディングの練習のポイントと最低限の基礎知識を載せており、パラグライディング教

本とともに繰り返し読んで、安全で楽しいフライト活動の助けにしてください。初心者の方はもちろん、すでに技能証をお持ちの方も、ぜひ。

価格・申込方法:

頒布価格1,000円(送料別)。JHF登録スクールまたはJHF事務局にご注文ください。注文書はJHFウェブサイト「書籍情報」からダウンロードできます。

■PG教本基礎技術DVDを頒布中です

基礎技術DVD「JHFパラグライディング教本基礎技術」、続いて第2弾「テイクオフとランディング」を頒布しています。

「JHFパラグライディング教本基礎技術」には、JHF教本のA・B級からクロスカントリーまで各課程を修了するために求められる基本的なフライト技術について、ベテラン教員による模範演技を収録しています。実際の飛行での操作を、複数の方向から近接撮影したものが2画面で表示され、各操作での動きをはっきりと見ることができ、判りやすく表現されています。

第2弾は、フライトの基本中の基本であるテイクオフとランディングを収録しており、フロントライズアップの基本から場周アプローチによるランディングまで、各操作のポイントをつかみやすい内容です。

価格・申込方法:

頒布価格それぞれ1枚1,500円(送料込)で、お申し込み10枚毎に2枚追加してお送りします。入手ご希望の方は、

最寄りのスクールでご購入いただくか、JHFウェブサイトにて注文書をダウンロードのうえお手続きください。

■JHF備品を貸し出しています

JHFでは備品の貸し出しをしています。ご希望の方は「JHFウェブサイト」→「JHFのご案内」→「無線機その他備品貸出」より貸出依頼書をダウンロードし、必要事項を記入・入力して、FAXかメールでお申し込みください。

■住所を変更したらお知らせください

住所を変更された方は、お手数ですが、下記項目をメール、FAX、郵便などでJHF事務局にご連絡ください。

フライヤー会員No./お名前/変更後のご住所/連絡先電話番号/メールアドレス

会費を銀行口座振替・コンビニ送金される場合、銀行等から新住所の連絡はありません。

■お問い合わせはJHF事務局へ

公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟

〒114-0015 東京都北区中里1-1-1-301

TEL.03-5834-2889 FAX.03-5834-2089

E-mail: info@jhf.hangpara.or.jp

http://jhf.hangpara.or.jp/

*このJHFレポートには賛助会員からのお知らせを同封しています。また、神奈川県在住の方には、県連盟からのお知らせも同封しています。

上空利用可能デジタル無線機使用のお薦め

2022年にアナログ式簡易無線機の運用が終了することに備えて、JHFではハンググライダーやパラグライダーのフライト中に使用する無線機として「簡易無線登録局」対応のデジタル無線機の使用を推奨しています。

上空利用5チャンネルを搭載、デジタル方式の音声なので、混信もすくなくクリアで聞き取りやすくなっています。STANDARD製のVX-291SとVXD450SにICOM製IC-DPR30、さらにSTANDARD製VXD1Sが加わりました。

JHF賛助会員(JHFウェブサイト)にバナーを掲載)からも購入するこ

とができます。

なお、JHFではSTANDARD製デジタル無線機を14台保有し、登録会員に貸し出しをしています。ご希望の方は上記の「JHF備品を貸し出しています」に沿ってお申し込みください。

すでにデジタル無線機をお持ちの方は、無線機の登録手続きを済ませ利用料を納めているか、ご確認ください。登録をしないまま無線機を運用すると、不法無線局として処罰の対象になります(1年以下の懲役または100万円以下の罰金)。うっかり忘れていたということのないようお願いいたします。

被災地復興 応援プロジェクト 「空はひとつ」

東日本大震災被災地への義援金を引き続き募っています。

◇義援金振込先

三菱東京UFJ銀行(銀行コード0005)

巣鴨支店(店番号770)

口座番号 普通 0017991

口座名義 公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟

JHFレポート220号

発行日:2018年(平成30年)1月20日

発行:公益社団法人 日本ハング・パラグライディング連盟(JHF)

編集:JHF事務局

印刷:株式会社サンライズ